

さようなら原発 10 万人集会に 17 万人が野田批判

子どもを守ろう 国土を守ろう パレードは 3 コース

2012年7月15日 東京代々木公園で平和フォーラムなどが主催する「さようなら原発 1000 万人アクション」が開かれた。

7月16日東京・代々木公園で、平和フォーラムなどが主催した「さようなら原発 1000 万人アクション」の集会が開かれ、全交労連、東京地連、埼玉地連が参加しました。



昨年 9 月に明治公園で開催された「脱原発」集会は予想以上の参加者があり、今回は午後 12 時の開会 3 時間前に第一陣が指定場所に到着開会前から労働組合や家族連れが続々と集まり、今までの集会にはない光景が見られました。呼びかけ人の大江健三郎さん、坂本龍一さんなどが主催者を代表し、坂本さんは「たかが電気のためになんで命を危険にさらさないといけないのでしょうか。

子供を守りましょう。日本の国土を守りましょう」と呼びかけ、大江さんは「政府のもくろみを打ち倒さなければならない。原発の恐怖と侮辱の外に出て自由に生きることを心から信じる。しっかりやり続けましょう」と訴えました。



また、11 万人以上がいまだ県内、県外に避難を強いられている福島からの参加者からは、廃炉に数十年以上かかるとされているのに、政府が簡単に収束宣言を出したことに対しての怒りに満ちた発言がありました。原発をめぐる次々に不祥事と真実が明らかになってきて、多くの国民が今の政権の原発政策に不信感を抱きはじめていることの「空気」と脱

原発への「風」が読めないことは、政権にとって今後決定的に致命なことになることでしょう。

全自交労連に結集する青森地連、岩手地本、福島地本、福井地連、愛媛地本などがそれぞれ地域の平和運動センターとして参加していました。

集会後のパレードは3コースに分かれ行われました。